

生涯学習情報紙

2025



発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第379号

第66回大島地区スポーツ大会

大島地区のスポーツイベントである大島地区大会。各市町村で23競技25種目が行われます。

大和村では、水泳競技が行われます。

○水泳競技 7月13日（日）
大和村民プールにて

※7/13に、スポーツ少年団競技別交歓大会も同じ開催になります。村民のみなさんの応援をよろしくお願いします。



7月14日は県民の日です

県では、「県民が、郷土の歴史や文化を見つめ直し、郷土に対する理解と関心を深め、ふるさとを愛する心を育むことにより、自信と誇りを持って、より豊かな鹿児島県を築き上げることを期する日」として、平成30年の条例により、7月14日を、「県民の日」と決めました。この日は、県立施設が無料開放され奄美パークもその対象となっています。これを機に訪れてみるのはいかがでしょうか。



青少年を非行や犯罪から守る

毎年7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」です。青少年を非行や犯罪被害から守るために、大人は何をすべきかを考えてみましょう。

今年度も最重要課題は、「インターネット利用におけるこどもの性被害等の防止」となっております。

スマホやタブレットの利用だけでなく、オンラインゲーム等でのトラブルも全国的に増えています。メディア利用については、大人と子どもが話し合うことが大切なことです。



本（ふん）の読（ゆ）み果てやねん？

「ケンムンは何ムン？」の一考察

奄美大島で最も知られている妖怪と言えば、「ケンムン」ですね。ケンムンに逢ったことがあるとか、そんなモンいるもんかなどと論争になることもしばしばありますね。

そのケンムンの語義について、郷土民俗研究家でもある田畑英勝氏（元大島高校教諭）は『奄美の民俗』の中で、「ケンムンは木のムンと言っておけば、今のところは何ら波風も立たずにすむのだが、…」と前置きしながら次のような説を述べています。

「両膝を立てて座っているが、すねが長く、頭はいつもすねの間に挟んでいる。だから、両膝を立てて座り方を島では「ケンムン座（あ）り」といって嫌う。」

この「ケンムン座（あ）り」に注目して、

「沖縄の山原地方にキジムン又はキジムナという奄美のケンムンの性格に似た妖怪がいる。「キ」は岩城のキであり、棺桶を納める自然の岩室で、切り立った所、断崖をさす語である。与論のギジも全く同じものらしい。また、洞窟などに住むコウモリの異様な姿を死者のマブリ（靈魂）として見ているのかも知れない。」

大島群島での葬法は、明治10年（1877年）に支庁から感染症の伝播などの衛生上の問題から風葬の禁止が命じられ、土葬へと変わってきました。藩政末期には土葬が普及していましたが、一部で風葬もあったようです。風葬は洞窟状の空間に遺体を置いて骨化させていました。その骨化させた遺体を棺桶に収める最も小さくコンパクトにされた“キ”の者＝「死人」なのではないかということです。だから子どもが「ケンムン座（あ）り」をするのを忌み嫌うのだということはないでしょうか。現代では、椅子に座っての食事が普通になりましたが、床に座って食事をする時に子どもが「ケンムン座（あ）り」のような姿勢で片膝を立てたりしての食事を見かけた時には、その背景を語り、しっかり正したいと思います。たとえその姿勢の方が科学的に理にかなっていると言っても。それも“奄美”なのではないでしょうか。

